

頸椎症性筋萎縮症の臨床症状と検査所見に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2017 年 3 月 16 日 ～ 2029 年 3 月 31 日

〔研究課題〕 頸椎症性筋萎縮症(CSA)の臨床的筋電図学特徴に関する後ろ向き研究

〔研究目的〕 頸椎症は多くの場合、頸部背部痛や手のしびれ、あるいは脊髄圧迫による歩行障害などを主な症状として呈しますが、それらを欠いて、上肢の筋萎縮や筋力低下のみを呈する症例があり、頸椎症性筋萎縮症(以下 CSA)と呼ばれています。CSA は、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、神経痛性筋萎縮症(NA)などの他疾患と紛らわしい場合があります、確実な診断が必要です。CSA は不思議なことに日本での報告が圧倒的に多いです。また整形外科領域からの報告が主体であり、針筋電図所見やその診断的意義はあまり検討されていません。本研究では欧米ではあまり知られていない CSA の臨床像を明らかにし、正確な診断に貢献することを目的とします。

〔研究意義〕 CSA を ALS や NA と正しく鑑別でき、適切な治療・予後予測を行えるとすれば、意義が大きいと考えます。

〔対象・研究方法〕 2017 年以降～2025 年 3 月末までの、当科及び関連施設(横浜労災病院、東京慈恵会医科大学医学部附属病院、亀田総合病院、宇都宮脳脊髄センター シンフォニー病院、埼玉成恵会病院)で筋電図検査に紹介された患者の臨床情報を後ろ向きに検討し、エントリー基準を設けて CSA 患者を抽出します。それらの症例の種々の臨床特徴と、針筋電図所見を検討します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院神経内科

〔個人情報の取り扱い〕 収集したデータは、個人毎に情報を加工したデータとしてデータ管理責任者が常時施錠される医局内のコンピュータのハードディスクに責任をもって保管し、パスワードを設定して研究責任者及びデータ管理責任者以外がアクセスできない体制とします。研究終了後には研究責任者が保管の対象となる記録類一式を DVD-R に記録し、封かん用封筒に詰め、帝京大学臨床研究センター(以下、「TARC」)事務局に提出します。TARC による保管期間は研究終了から 10 年であり、研究責任者から延長の申し出がない場合は、TARC により適切に破棄されます。また、学会論文等での公表は集計結果のみであり、個々人の情報は提示しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部脳神経内科・病院教授 畑中裕己

研究分担者: 帝京大学医療技術学部視能矯正学科・教授 園生雅弘

帝京大学医学部脳神経内科・助教 神林隆道

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部附属病院神経内科(03-3964-1211)〔内線 7346〕